

2 出生

(1) 出生数・出生率

令和3年の出生数は4,415人で、前年の4,473人から58人減少し、出生率（人口千対）は6.7（全国第16位）で、前年の6.8を下回った。出生数、出生率ともに昭和46～49年の第2次ベビーブーム以降、ゆるやかな減少傾向が続いている（図1）。

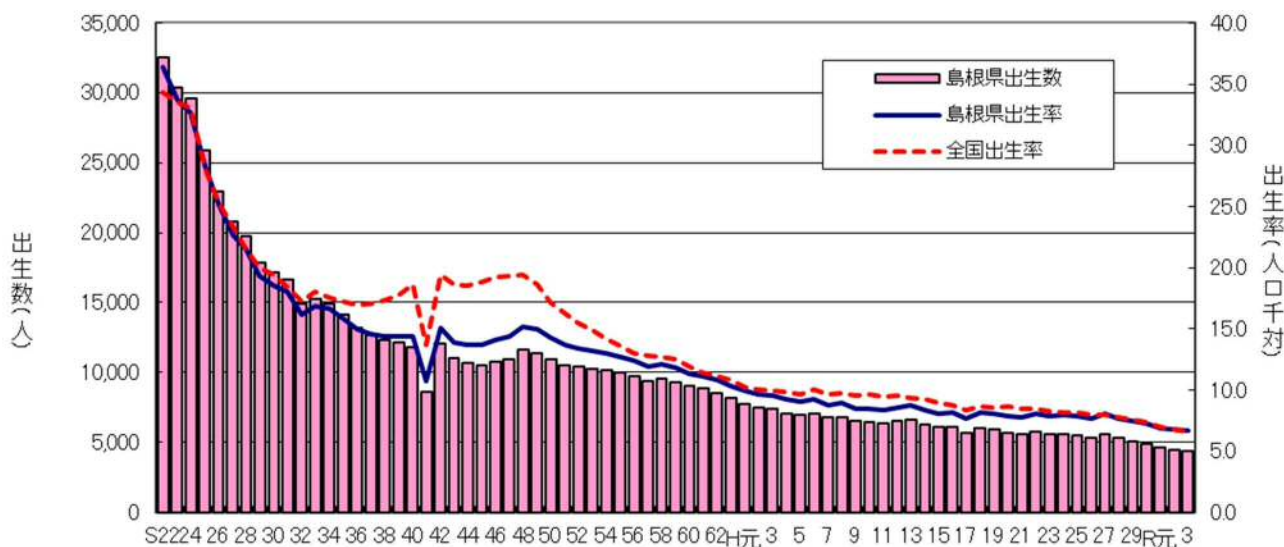


図1 出生数・出生率（人口千対）の年次推移

出生数を母の年齢（5歳階級）別にみると、30歳～34歳、35歳～39歳の各階級が前年より増加し、45歳～49歳の階級は前年と同じ、その他の各階級では減少した（表2）。

表2 母の年齢（5歳階級）別にみた出生数

母の年齢	出生数				対前年増減		
	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	元年－30年	2年－元年	3年－2年
総数	4,887	4,594	4,473	4,415	△ 293	△ 121	△ 58
～14歳	-	-	-	-	-	-	-
15～19	32	33	37	35	1	4	△ 2
20～24	455	417	393	341	△ 38	△ 24	△ 52
25～29	1,399	1,308	1,304	1,246	△ 91	△ 4	△ 58
30～34	1,739	1,593	1,508	1,568	△ 146	△ 85	60
35～39	982	1,015	976	984	33	△ 39	8
40～44	270	225	245	231	△ 45	20	△ 14
45～49	10	3	10	10	△ 7	7	0
50歳以上	-	-	-	-	-	-	-

出生順位別にみると、令和3年は第1子、第2子が前年より減少し、第3子以上で増加した（表3）。

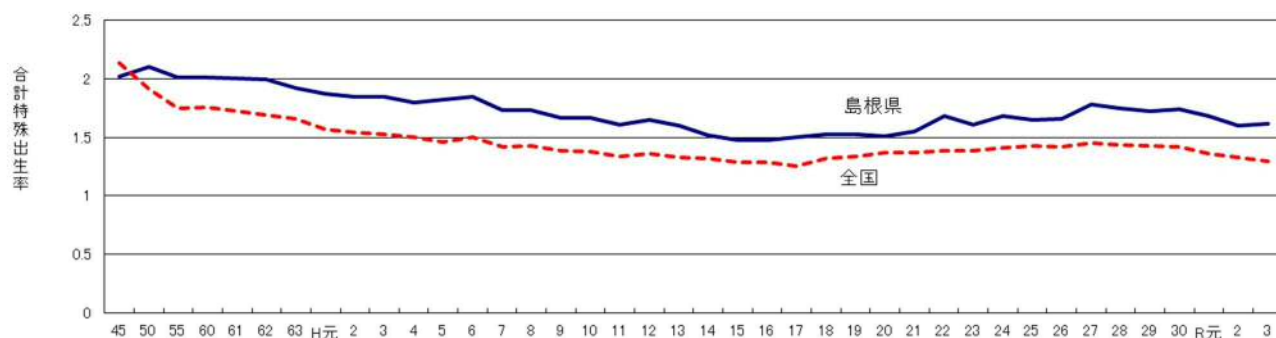
表3 出生順位別にみた出生数の年次推移

出生順位	出生数				対前年増減		
	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	元年－30年	2年－元年	3年－2年
総数	4,887	4,594	4,473	4,415	△ 293	△ 121	△ 58
第1子	2,021	1,827	1,888	1,811	△ 194	61	△ 77
第2子	1,760	1,679	1,563	1,556	△ 81	△ 116	△ 7
第3子以上	1,106	1,088	1,022	1,048	△ 18	△ 66	26

(2) 合計特殊出生率

令和3年の合計特殊出生率は1.62であった。全国と比較すると、昭和50年以降一貫して島根県が上回っており、令和3年の順位は全国第4位である（図2）。

図2 合計特殊出生率の年次推移



○算出方法

※1 ※2
「(母の年齢別出生数) ÷ (年齢別女性人口)」の15歳から49歳までの合計

※1 (母の年齢別出生数) = (分子): 「人口動態統計」(厚生労働省)

※2 (年齢別女性人口) = (分母): 「推計人口」(総務省、ただし国勢調査年は国勢調査における日本人人口)

母の年齢（5歳階級）別出生率の昭和45年以降の推移を見ると、年により多少の増減があるものの、概ね20歳代では低下傾向、30歳代では上昇傾向にある。令和3年は30～39歳の各階級で上昇し、20～29歳の各階級では下降した（図3）。

図3 母の年齢(5歳階級)別出生率の年次推移

